第2学年美術科学習指導案

1. 単元名

「抽象的な色の構成からステンドグラスを作る～クラス共同制作に向けて～」

(1) 美術科としての目標

①関心・意欲・態度

先輩たちの行事の学級共同作品や授業での個人作品を見て、次は自分の代だ、という表現への意欲を持つ。

②発想や構想の能力

寒色系と暖色系や対称的な言葉、音楽を聴いてのイメージなどから色の構成を発想し表現したい感じをワークシートに構想する。

③創造的な技能

- ・色鉛筆のハッチングの混色を生かした色づくりができる。
- ・黒ラシャ紙の線の表情を生かし、美しい切り絵が作れる。
- ・セロファンを重ねた色の効果を生かし、表現したい感じのステンド作品を作ることができる。

④鑑賞の能力

先輩たちの行事の学級共同作品や授業での個人作品を見て、作者の表現意図や技法的な美しさを発見する。

(2) 汎用的スキル： 協働する力

(3) 態度・価値： 好奇心・探求心

2. 生徒の実態

中学二学年はどの学級もにぎやかで活気がある。全体的に美術への関心は高いといえる。中学一年次での小学校時代の友人関係の強いつながりから、他の人との新たな関係性を築き中学校生活が馴染んできた頃になる。しかし、個別には生徒指導上の問題や学習への取り組み意欲に問題を抱えた生徒もいる中で、そういった生徒も芸術に対する関心は高い傾向にあり、表現意欲は高い。この単元では単なる色彩構成に留まらず、切り絵の楽しさや透明感のあるセロファンという素材に興味を持ってもらえたら、と願っている。やがては先輩達のように芸術発表会でクラスの大きな作品に取り組むのだ、というモチベーションを持って活動に取り組めることを期待している。

3. 単元について

①教科から見た特性

- ・中学校美術科における基本的な内容である色彩についての学習の知識をもとに、色の感情効果や色から受ける感じを生かし、線や画面構成による効果も加味して、色鉛筆のハッチングで混色しながら狙った色を作り色彩構成することができる。
- ・黒ラシャ紙の線の強弱による表情を生かし、切り絵として美しさのあるステンド画のベースを作ることができる。
- ・表したい感じに合わせた配色をカラーセロファンの重なりの色味を生かした色彩構成を行うことができる。

②汎用的スキルや態度・価値育成の観点からみた特性

・協働力

芸術活動は個人の表現で完結することも多いが、社会活動の中ではひとつのプランやプロジェクトを他の人との関係性の中から生み出していくことがほとんどである。現在はリーダーとして自分の意図の実現を、相手に対して傲慢な姿勢で要求していくことより、構成員の能力や持ち味を引き出しながら、全体をまとめ成功に導くような姿勢が求められていると思われる。美術科では鑑賞と表現の活動を通して、世代や国や民族の壁を超えて、素直な気持ちでその良さを発見し、共感する中でそのような姿勢を育てたいと考えている。この単元では他と協力しながら新しい色を作り、名前を付け発表する活動の中に見られる。

・好奇心・探求心

自分以外の作品に心を打たれたり共感したり、新しい価値の発見があったりする中で、自分ならこんな作品にしてみたいという意欲が生まれてくる。そこに自分のこれまでの表現活動の蓄積から新しい作品を生み出そうとする気持ち、それが好奇心・探求心であり創造力のもとになる。この単元では新しい色を見つけ、色や形を自分のテーマに沿って、バランスよく画面構成することの試行錯誤から育つものと美術科では考えている。

4. 単元計画と資質・能力を育成する主な手立て（全5時間 本時4/5時間）

	学習活動	関連する主な資質・能力	資質・能力を育成する主な手立て
第1次 (3時間)	<ul style="list-style-type: none"> ・スケッチを拡大した型紙とラシャ紙を重ね切りする。 ・表現したいこと、伝えたいことについて考えて、簡単に記入する。 		
第2次 (2時間)	<ul style="list-style-type: none"> ・グループ活動によるセロファンを重ねの色づくり。作った色に名前を付ける。(15分) ・8グループの中から2グループが発表する。(10分) ・自分の黒ラシャにセロファンを貼っていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ○協働する力 ○好奇心・探求心 	<ul style="list-style-type: none"> ◇なるべく多く作ってみよう 作った色に番号をふってみよう。 ◇新しく作った色に名前を付けてみよう。 ◇他のグループの発表を聞いていいな、と思ったらメモしよう。

5. 本時の学習指導

(1) 本時のねらい

- ・セロファンを貼る前にグループ活動によって自分たちで色を作り発表する場面を設定し、生徒同士の交流からの新しい発想をグループで共有し、自分の作品に生かす楽しさと表現の広がりを実感させる。
- ・黒ラシャ紙の線をさらに引き立てるように透明感のあるセロファンを効果的に使い、自分の表現したい感じや想いを表す。

(2) 本時の展開 4/全5時間

時間	○学習活動 ・予想される生徒の反応	◇資質・能力を育成する主な手立て ◆評価
導入 10分	<ul style="list-style-type: none"> ○先輩達の作品を見せ、多くの種類の色が使われているのに、セロファンに限られた色数なのはなぜか考えさせる。 ・重ねて使っているからだ、と気づく。 ○違う二色を重ねるとどうなるか、予想させる。 ・混ざった色になる。濃くなる、暗くなる。 	<ul style="list-style-type: none"> ◇しっかり時間をとって考えさせる。教師は結果を言わない。 ◆正しくなくても自分で考えて発表している。
展開 30分	<ul style="list-style-type: none"> ○グループでセロファンをいろいろ重ねてたくさんの色を作ってみる。 ・きれいな色ができた。たくさん重ねたら濁った。きたない ○ 作ったら色の番号と名前を模造紙に書き込む ・フルーツなどの名前を使っている。 ○ 8グループの中から数グループ発表する。(発表班はくじ引き) ○自分の個人作品に 表現したいこと、伝えたいことなどをもとに大きい面積からセロファンを貼っていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ◇鈍い色や灰色など、鮮やかでない色の良さも発見させる。 ◆仲間と楽しみながら新しい色を発見しているか。 ◆楽しみながら色の名前をマーカー等で書き込んでいるか。 ◇協働して作った色を個人作品に行かすよう促す。 ◆みんなで作った色が自分の作品に効果的に活かしていることを実感する。
結末 10分	<ul style="list-style-type: none"> ○次回への見通しを立てる。 	<ul style="list-style-type: none"> ◇イメージスケッチ通りでなく新たな発想を生かして変わっていくことも芸術では大切なことだと伝える。

●記録映像 有, 2場面(教師側, 生徒グループの活動の様子)